



2011年3月期 第2四半期決算説明会

2010年11月 10日

株式会社ハマキョウレックス



- I. 会社概要
- II. 2011年3月期第2四半期 概況
- III. 2011年3月期 下期に向けて
- IV. 中期経営計画
- V. 2011年3月期第2四半期 決算実績
- VI. 近物レックスの現況と今後の戦略

I . 会社概要

I-1. 経営理念



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取組んでおります。

I-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。
当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の
展開と継続的で質の高い成長を図り、
お客様第一、品質第一を基本に、企業としての
社会的責任を果たしてまいります。
また、短期的な収益にとらわれず、
長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における
質的内容の日本一を目指します。



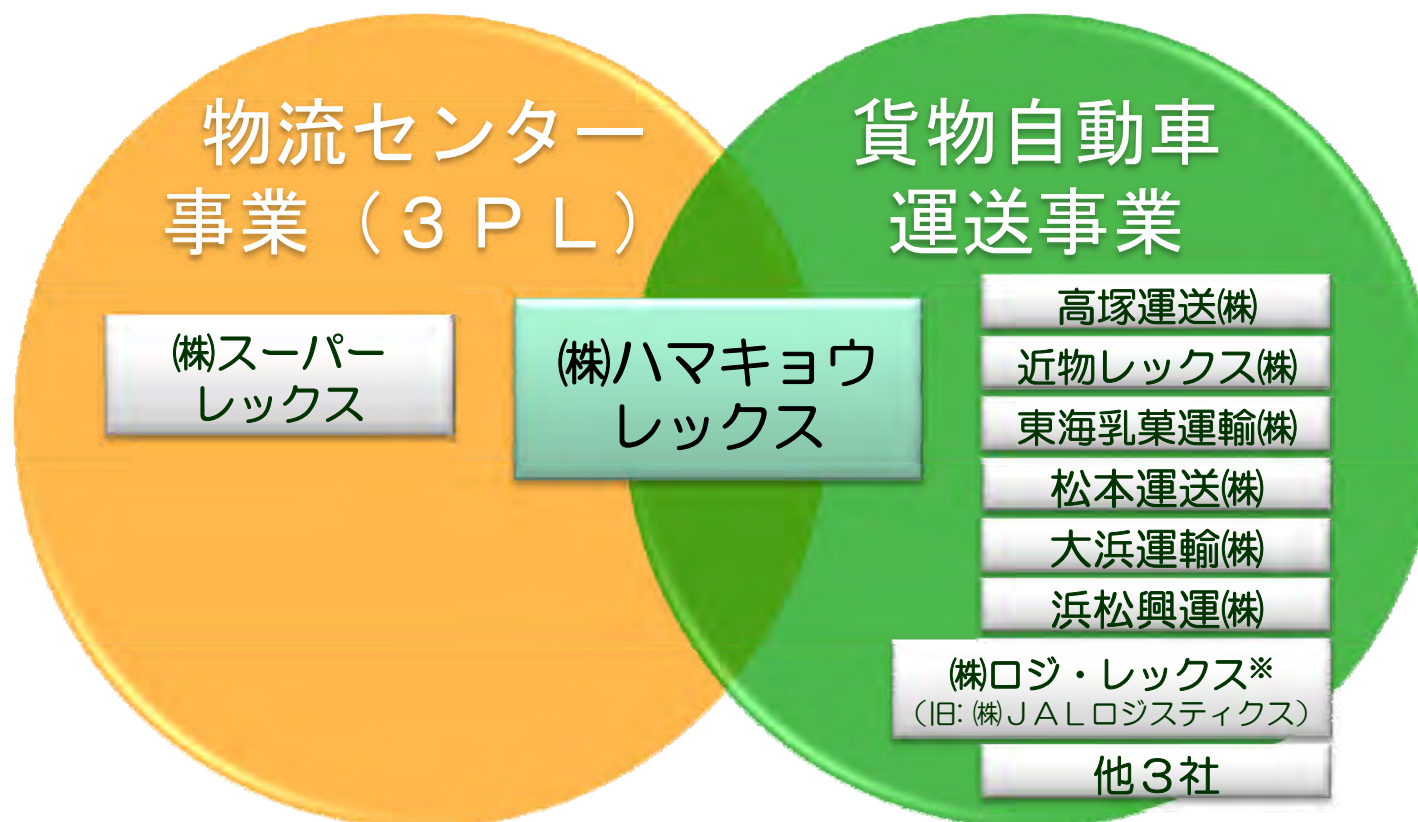
I-3. プロフィール

会社概要(2010年9月30日現在)

- 社 名 株式会社ハマキョウレックス
(HAMAKYOREX CO., LTD.)
- 設 立 昭和46年12月
- 資 本 金 40億4,505万円
- 決 算 期 3月31日
- 従 業 員 数 連結 3,925名、単体 639名
- 発 行 済 株 式 数 8,356,000株
- 株 主 数 3,732名
- 事 業 内 容 物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
- 連 結 子 会 社 10社
- 売 上 高
(2010年3月期) 連結 782億7,356万円
単体 296億6,614万円
- 経 常 利 益
(2010年3月期) 連結 50億2,327万円
単体 33億2,598万円

I -4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



※2010年10月1日より関連会社となりました。
(11月2日にて(株)ロジ・レックスへ社名変更)

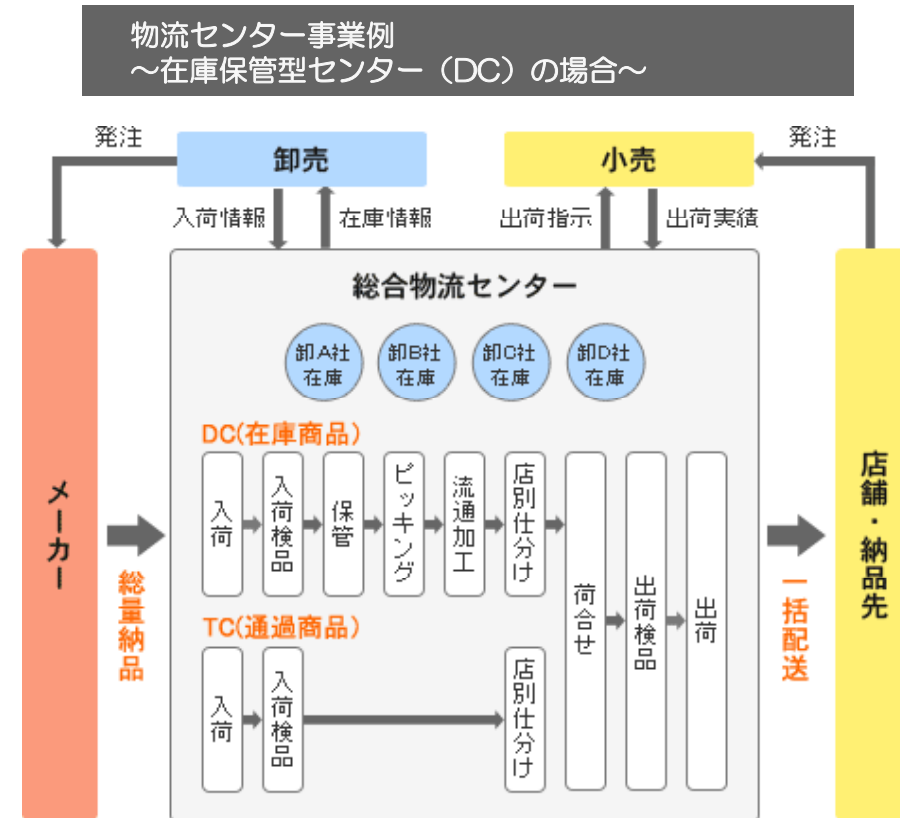
I-5. 物流センター事業

当社は3PL(3rd Party Logistics)をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。



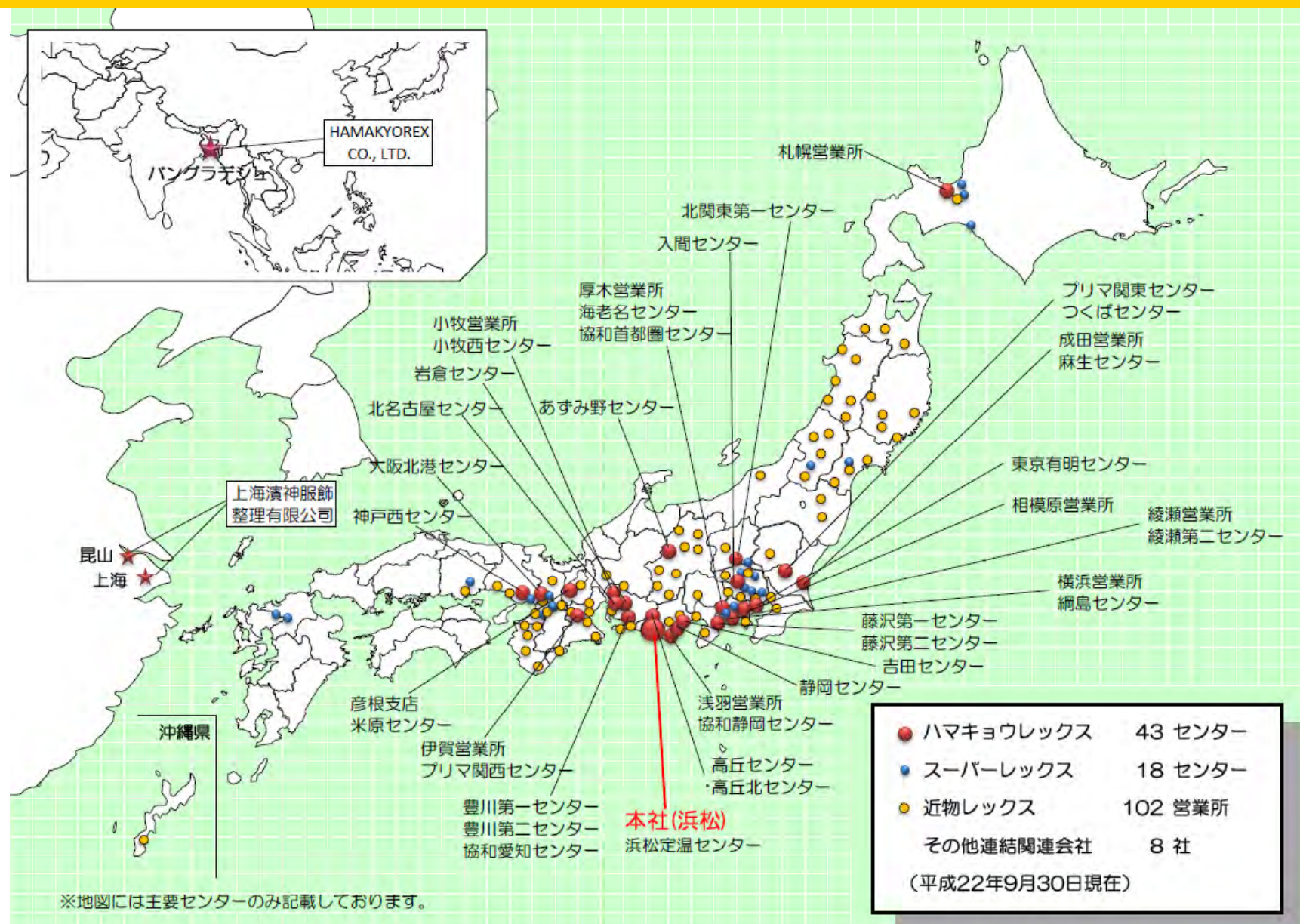
コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支※1**」・「**アコーディオン方式※2**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

※2 アコーディオン方式とは、日々の物量(仕事量)にあわせ、最適(最小限)な人員投入を行う仕組みです。これにより日々最適な人員体制を敷くことで、余分なコスト発生を抑えることができます。

I-7. 拠点紹介



Ⅱ. 2011年3月期 第2四半期概況

Ⅱ-1. 第2四半期累計期間の業績

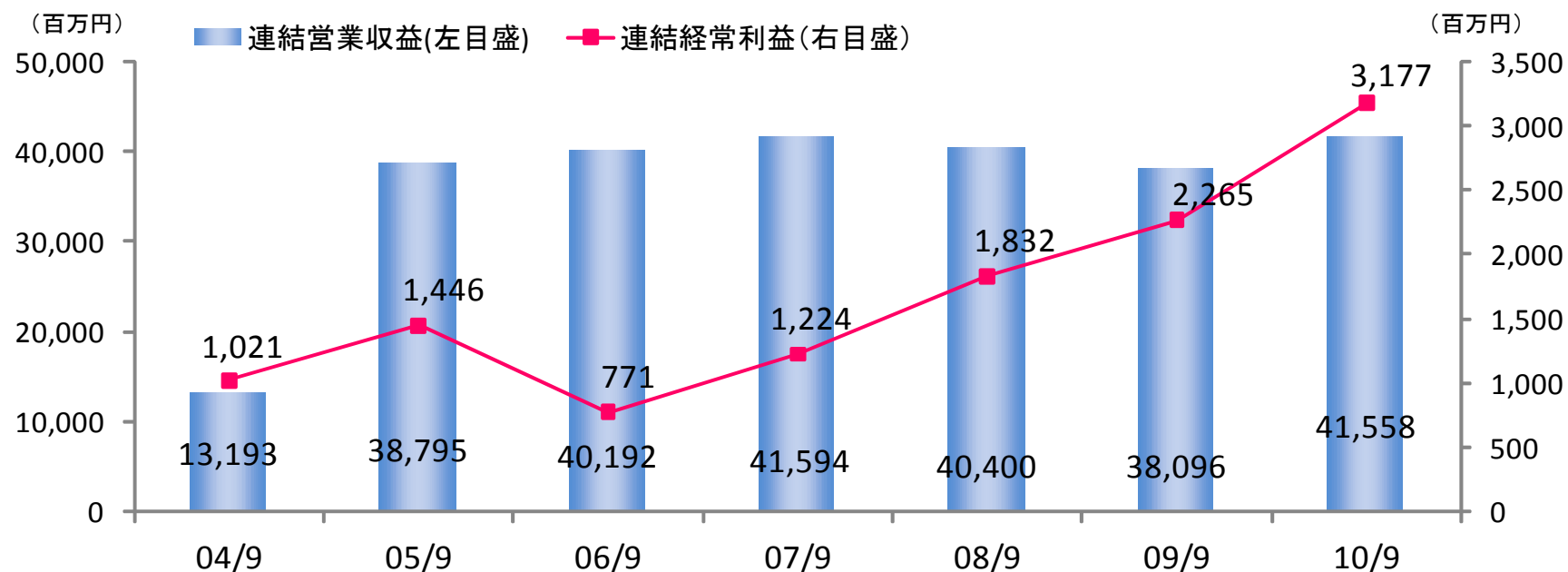
営業収益は、**415億58百万円**（前年同期比 +9.1%）

経常利益は、**31億77百万円**（前年同期比 +40.3%）の増収増益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 41,558百万円	+3,462百万円 (+9.1%)	+558百万円 (+1.4%)	・前期取得した連結子会社の増加 ・前期稼働センターの寄与 ・近物レックスの物量増による影響
営業利益 2,956百万円	+610百万円 (+26.0%)	+306百万円 (+32.0%)	・前期取得した連結子会社の増加 ・物流センター事業の寄与 ・近物レックスの改善および収益増加による寄与
経常利益 3,177百万円	+912百万円 (+40.3%)	+627百万円 (+24.6%)	・営業利益の増加 ・各種助成金収入の増加
四半期利益 1,498百万円	+441百万円 (+41.7%)	+298百万円 (+24.8%)	・経常利益の増加 ・株価低迷による評価損の計上 ・資産除去債務の計上

※1 計画は、2009/5/13発表数値

Ⅱ-2. 収益構造



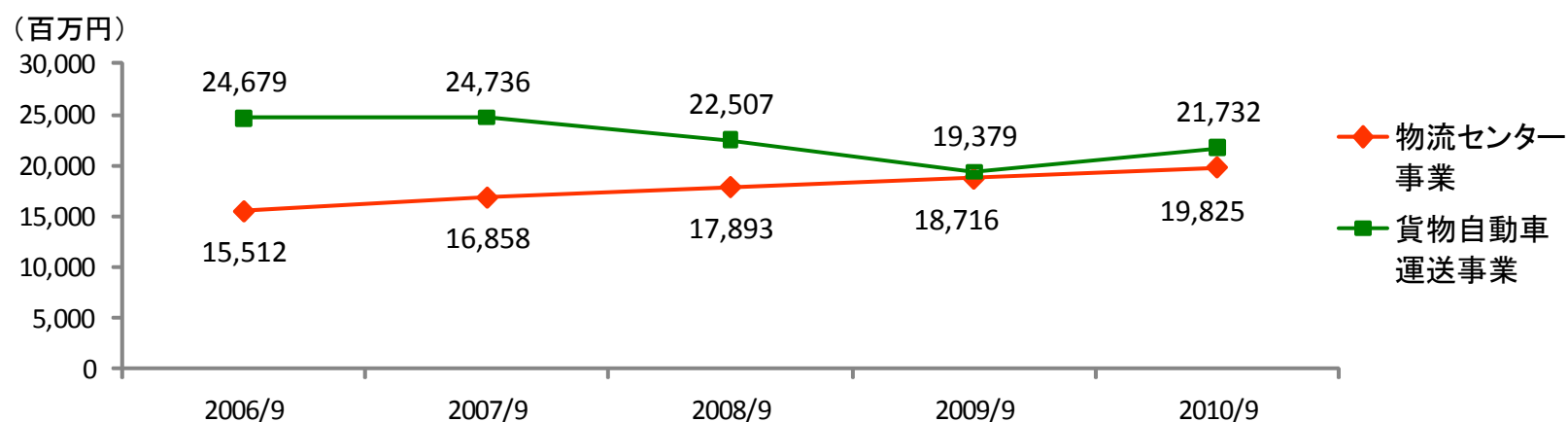
	連結業績	個別業績
営業収益	増収	18期連続(過去最高)
経常利益	4期連続(過去最高)	13期連続(過去最高)
四半期純利益	4期連続(過去最高)	3期連続(過去最高)

※第2四半期連結決算は2000年9月より開始

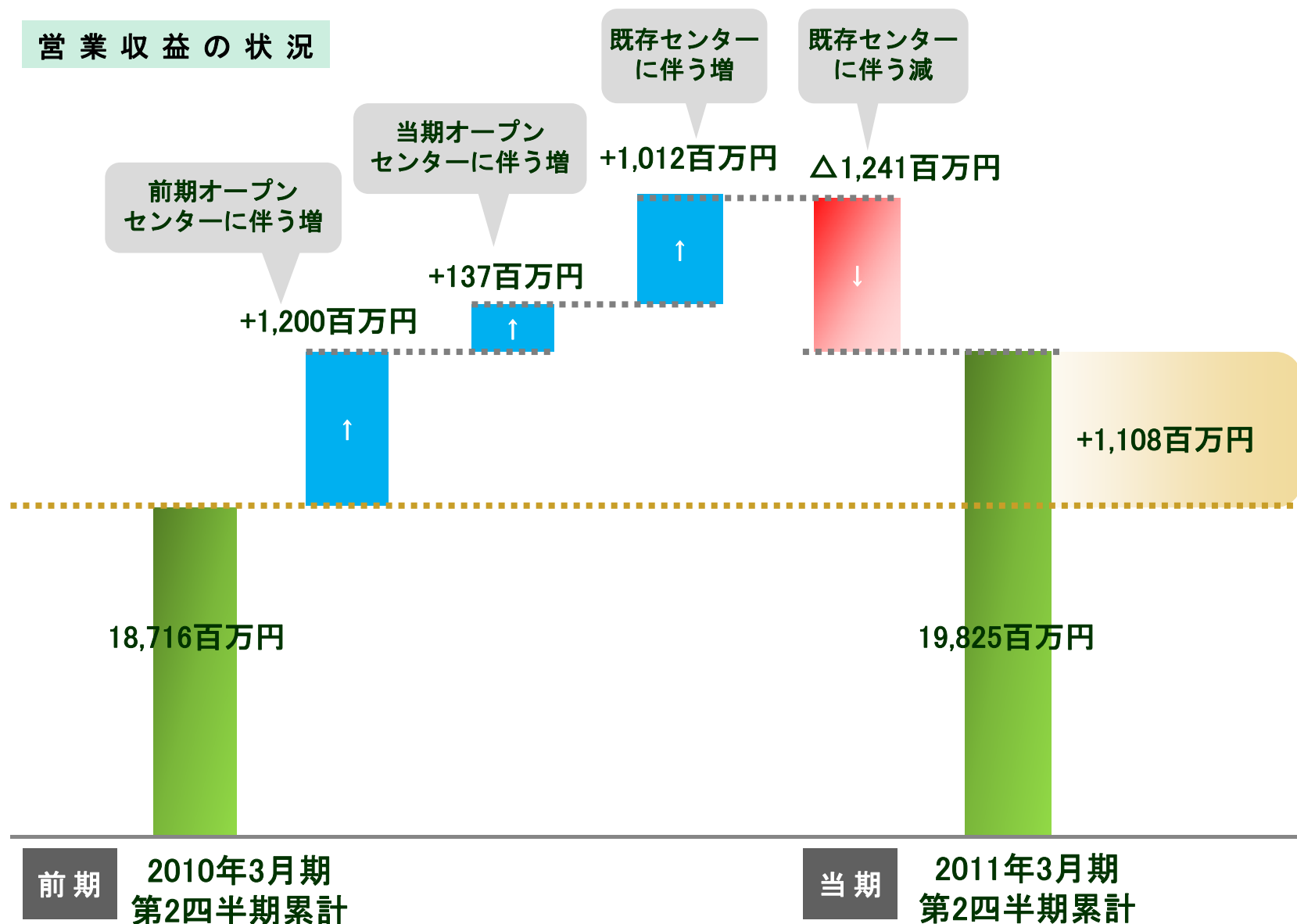
Ⅱ-3. セグメント別営業収益の推移

(百万円)

	2006/9 (構成比)	2007/9 (構成比)	2008/9 (構成比)	2009/9 (構成比)	2010/9 (構成比)	増減額 (前期比)
物流センター事業	15,512 (38.6%)	16,858 (40.5%)	17,893 (44.3%)	18,716 (49.1%)	19,825 (47.7%)	+1,108 (+5.9%)
貨物自動車 運送事業	24,679 (61.4%)	24,736 (59.5%)	22,507 (55.7%)	19,379 (50.9%)	21,732 (52.3%)	+2,352 (+12.1%)
計	40,192 (100.0%)	41,594 (100.0%)	40,400 (100.0%)	38,096 (100.0%)	41,558 (100.0%)	+3,461 (+9.1%)



Ⅱ-4. 物流センター事業の概況



Ⅱ-5. 物流センター事業の稼働状況

●新規受託件数

繊維・アパレル	1社
食品	3社
雑貨	4社
計	8社



●当期センター稼働

	新規※1	既存※2
繊維・アパレル	—	1社
食品	2社	1社
雑貨	2社	2社
計	4社	4社

●物流センター数

2010年9月30日現在

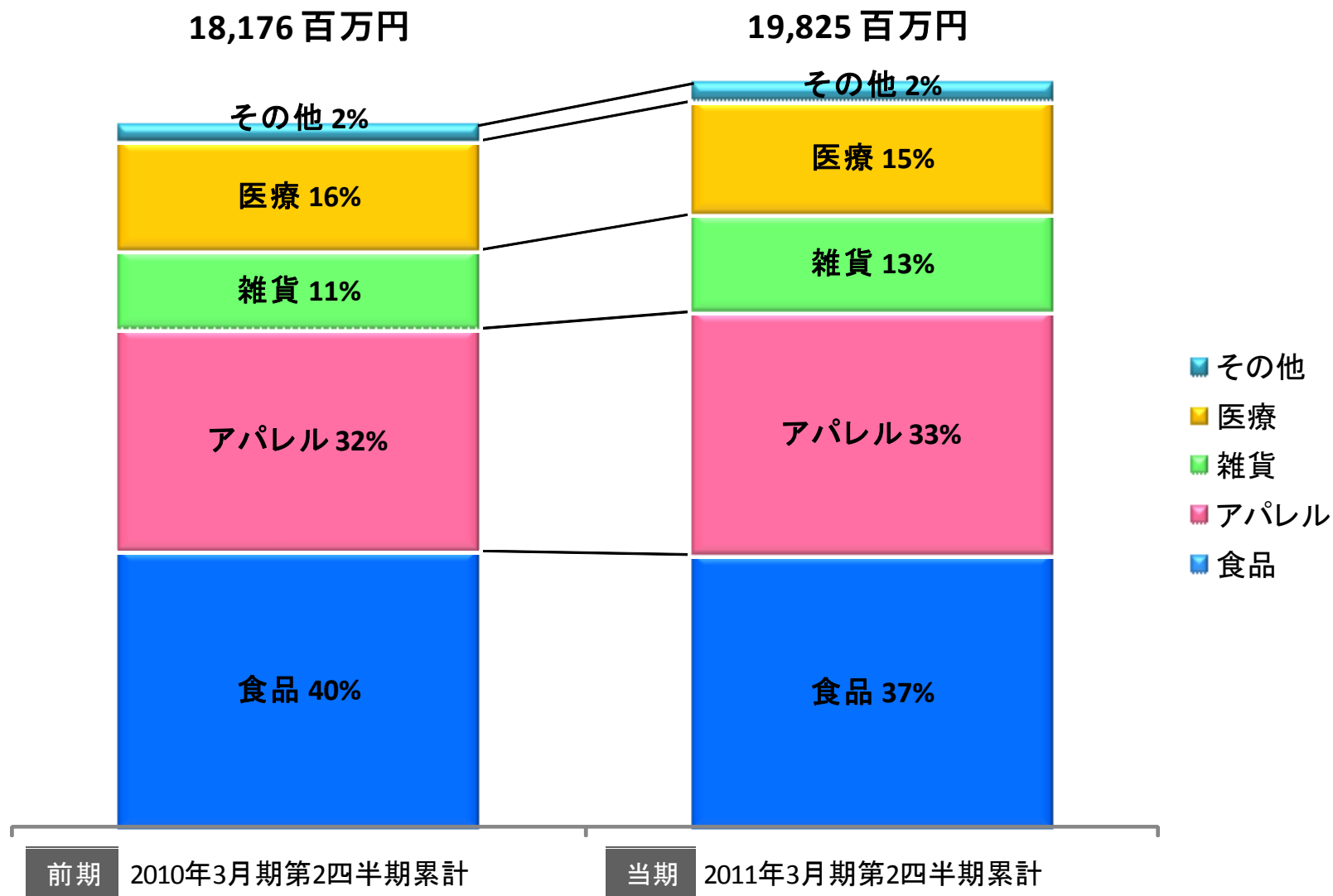
自社センター	19 (191,204㎡)
借用センター	42 (372,005㎡)
計	61 (前年度末比+1)

※1 新規に稼働した物流センター

※2 既存の物流センターに稼働した案件

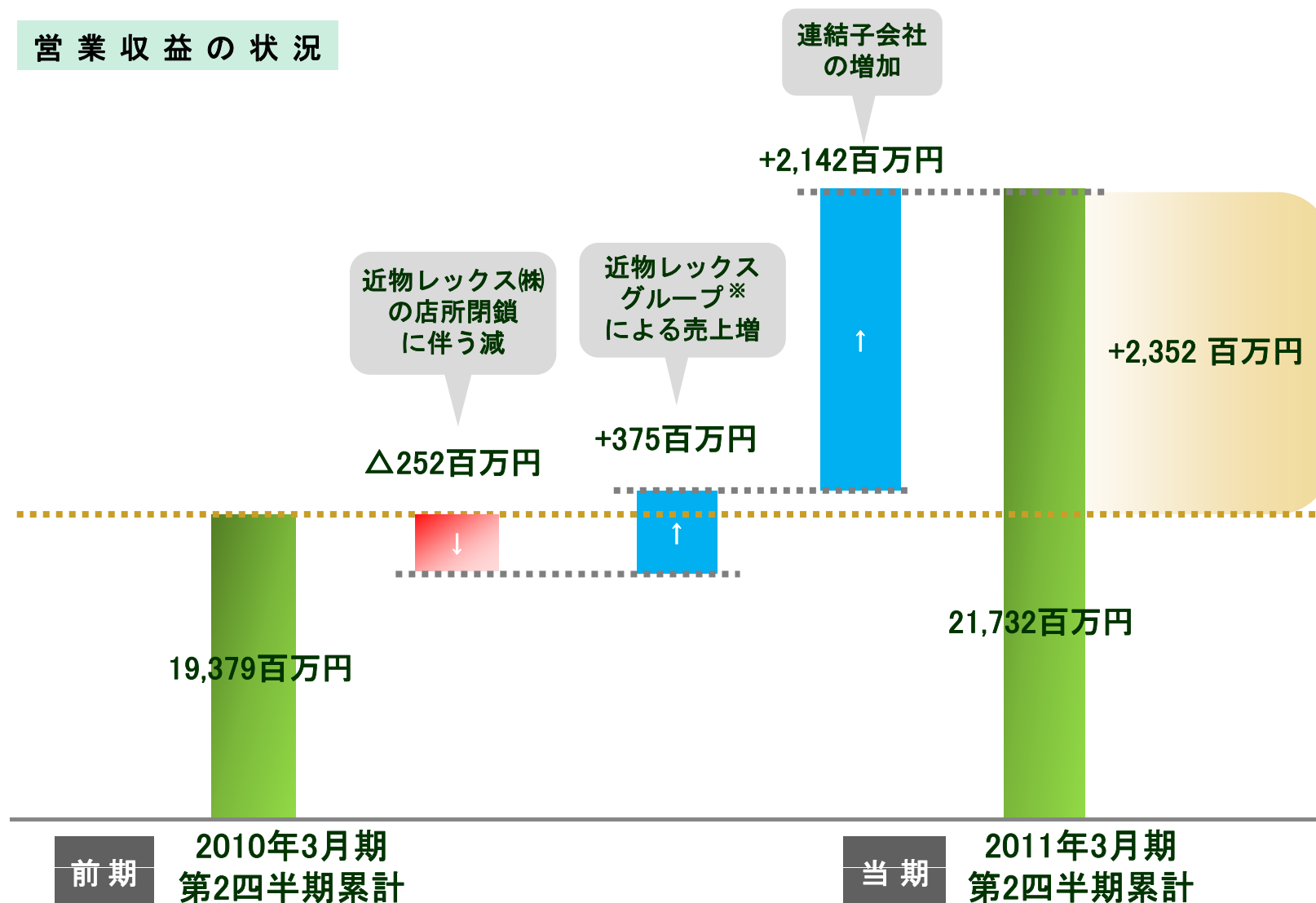
※3 前期に受託した2件については、2011年1月以降稼働予定です。

Ⅱ-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高



Ⅱ-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況



※近物レックスグループとは、近物レックス(株)とその子会社3社です。(都運輸(株)、三重近物通運(株)、茨城県貨物自動車運送(株))

Ⅱ-8. 貨物自動車運送事業の概況 2



1. 近物レックスの収支改善状況

- 人件費の削減(△175百万円)
- 当社と近物レックスでの取引を拡大 (前期比 +89百万円)
- 近物レックスの設備を利用した物流センターを稼働
2件 (4月京都、9月名古屋)

2. 輸送能力

- 車両台数 3,243 (自社車両:2,352、リース車両:891)
- 延積載屯数 19,933 (トン)

3. M&A

- (株)ロジ・レックス(東京都大田区)
2010年10月に株式の72.0%を取得。
売上高(平成22年3月期)40億円
※2010年11月2日商号変更 (旧 (株)JALロジスティクス)
※第3四半期より連結

Ⅲ. 2011年3月期 下期に向けて

Ⅲ-1. 2011年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績		個別業績	
	計画	前期比 (増加率)	計画	前期比 (増加率)
営業収益	84,000	+5,726 (+7.3%)	32,000	+2,333 (+7.9%)
営業利益	5,700	+744 (+15.0%)	3,470	+233 (+7.2%)
経常利益	5,500	+476 (+9.5%)	3,500	+174 (+5.2%)
当期純利益	2,600	+203 (+8.5%)	2,000	+64 (+3.3%)
設備計画	5,700	+4,054	3,400	+2,780

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	40,100	+2,479	(+6.6%)
	営業利益	4,600	+315	(+7.4%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	43,900	+3,246	(+8.0%)
	営業利益	1,100	+430	(+64.2%)

見通しにつきましては、10月以降の景気動向が不透明なため据え置きしております。
第3四半期の状況を見た上で検討いたします。

Ⅲ-2 . 経営指標

	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	124.11	179.04	200.47	286.92	311.24
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	7.6	10.2	10.5	13.6	14.4
1株当たり純資産(円) 〔BPS〕	1,682.15	1,817.69	1,983.94	2,245.82	2,542.07
総資産経常利益率(%) 〔ROA〕	2.9	4.2	5.3	6.4	6.6
営業収益営業利益率(%)	2.8	4.0	5.2	6.3	6.8
営業収益経常利益率(%)	2.5	3.7	5.0	6.4	6.5
1株当たり配当金(円)	24	28	30	32	34

Ⅲ-3. 下期の取り組み

1. 3つのキーワードを中心とした取り組みの継続

全員参加・日々収支・コミュニケーション

⇒ 既存路線の踏襲・基本の徹底

2. 物流センター事業を中心とした拡大路線

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

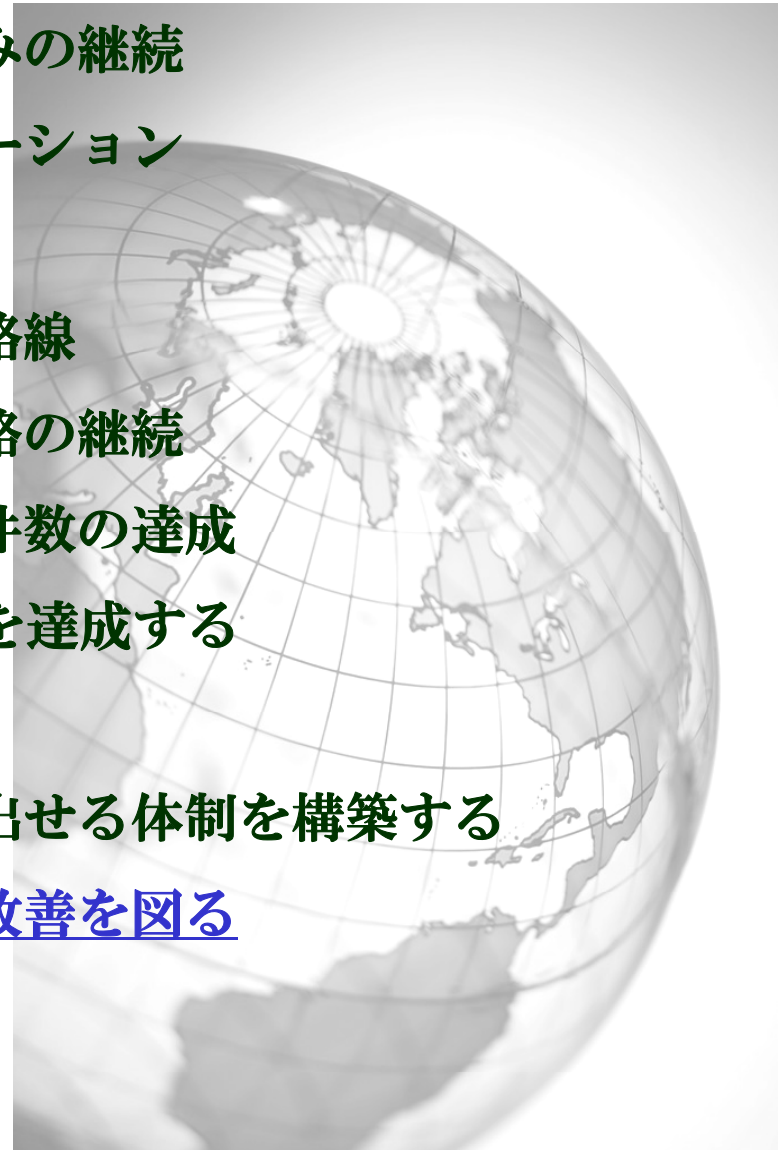
3. 物流センター事業での年間目標受託件数の達成

年間受託目標10社以上の新規受託を達成する

4. 近物レックス㈱の利益安定化

経常利益ベースで安定的に利益の出せる体制を構築する

⇒継続して近物レックス㈱の経営改善を図る

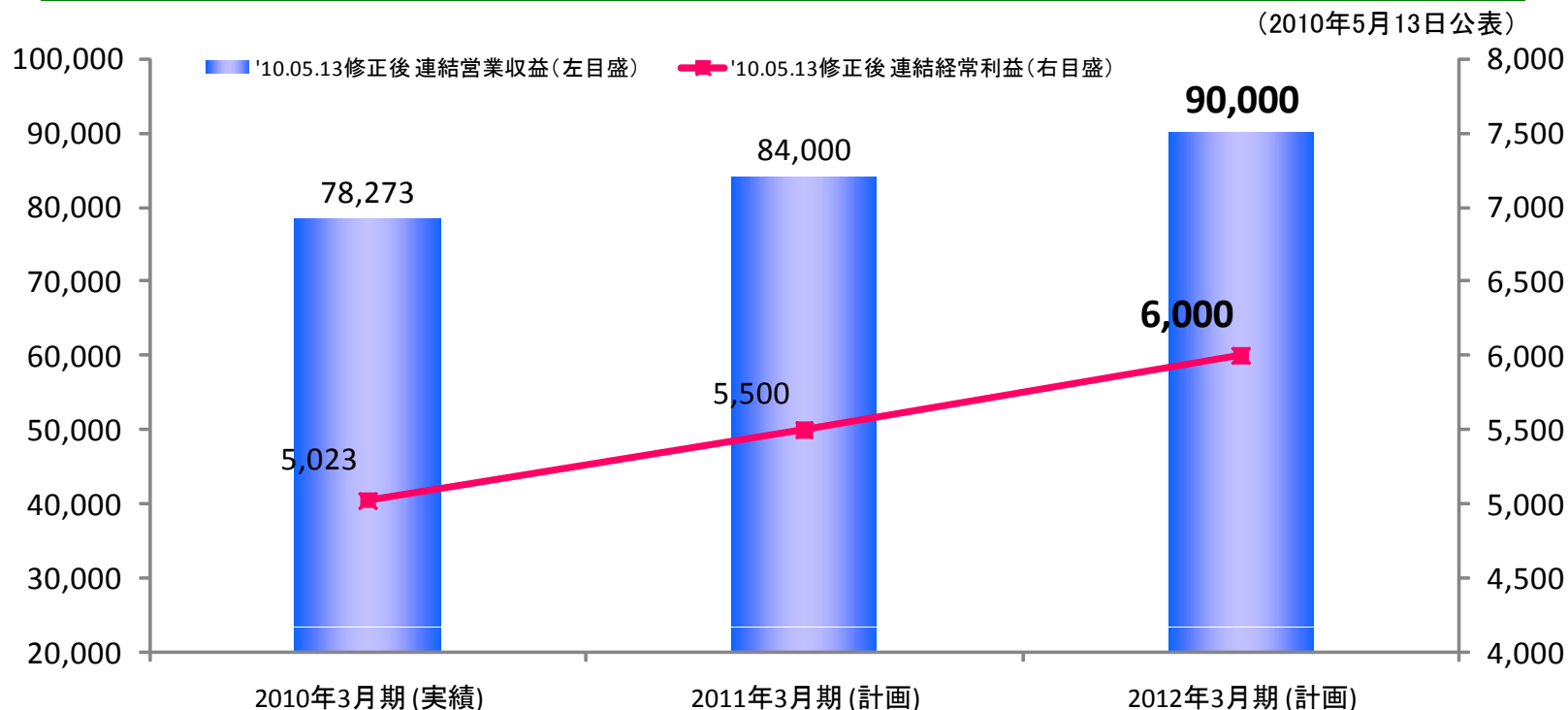


IV. 中期経営計画

IV-1. 中期経営計画

(百万円)

	2010年3月期 (実績)		2011年3月期 (計画)		2012年3月期 (計画)	
	連結	個別	連結	個別	連結	個別
営業収益	78,273	29,666	84,000	32,000	90,000	34,000
経常利益	5,023	3,325	5,500	3,500	6,000	3,700
当期純利益	2,396	1,935	2,600	2,000	2,800	2,100
1株当たり当期純利益	286.92	231.71	311.24	239.41	335.18	251.38
営業収益経常利益率	6.4%	11.2%	6.5%	10.9%	6%以上	10%以上
設備投資計画	16億円	6億円	57億円	34億円	20億円	6億円



IV-2. 中期経営計画の取り組み

1. 3PLを軸とする事業展開(拡大路線)

3PLを成長ドライバーとした戦略の継続

2. 3PL事業と近物レックス株の融合

近物レックスの人・設備・配送網を活用した3PL事業を展開

→22年9月現在 5センター

3. 近物レックス株の経営改善

燃料の動向などの対外的な影響に左右されない、每期安定した経常利益ベースでの黒字化をめざす

4. 新規顧客獲得に向けた取り組み

グループ全体での共同営業により、新規顧客獲得を目指す

5. 海外戦略への取り組み

国内の顧客満足度向上のため、海外から国内までの一気通貫型物流を目指す

6. M&A

3PLを行っている会社のM&A案件を中心に前向きに検討を行う



V. 2011年3月期 第2四半期 決算実績

V-1. 四半期会計期間（3ヶ月）の業績

（連結；百万円）

	10年3月期第1四半期			10年3月期第2四半期		
	2010/6	前期比 (増減率)	売上比	2010/9	前期比 (増減率)	売上比
営業収益	20,516	+1,608 (+8.5%)	—	21,041	+1,853 (+9.7%)	—
営業利益	1,463	+302 (+26.1%)	7.1%	1,492	+307 (+26.0%)	7.1%
経常利益	1,501	+356 (+31.2%)	7.3%	1,676	+555 (+49.6%)	8.0%
四半期純利益	698	+189 (+37.3%)	3.4%	799	+251 (+45.8%)	3.8%

V-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績

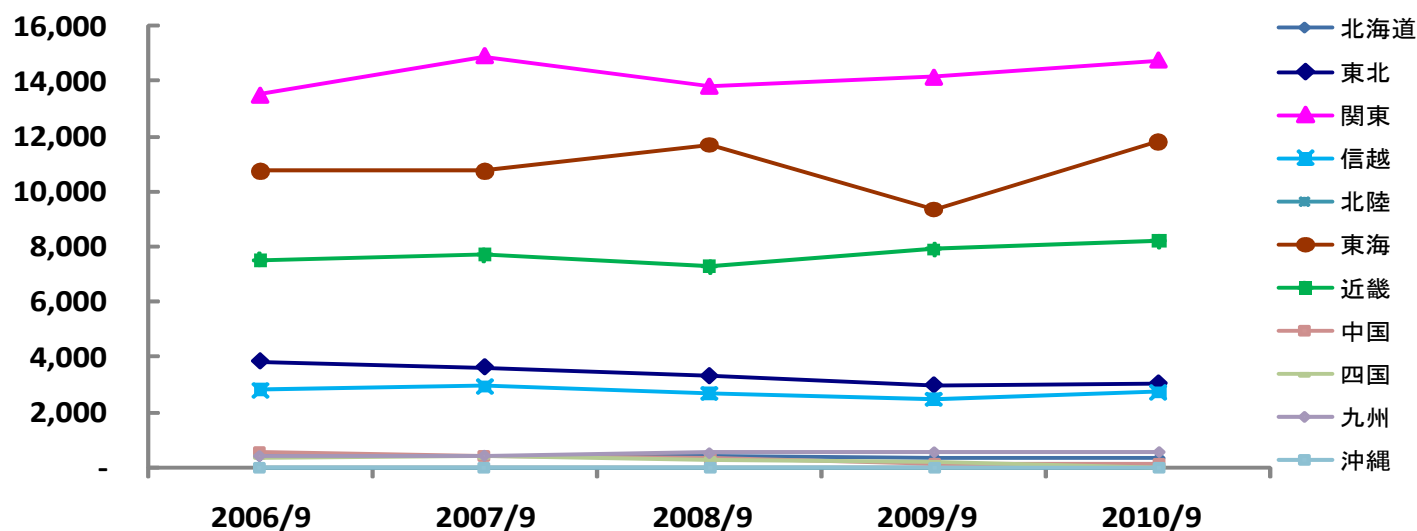
(百万円)

		10年3月期第1四半期 (4月～6月)		10年3月期第2四半期 (7月～9月)		累計(4月～9月)	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター 事業	営業収益	9,835	+484 (+5.2%)	9,990	+624 (+6.7%)	19,825	+1,108 (+5.9%)
	営業利益	1,290	+95 (+8.0%)	1,103	+112 (+11.4%)	2,393	+207 (+9.5%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	10,681	+1,123 (+11.8%)	11,051	+1,229 (+12.5%)	21,732	+2,352 (+12.1%)
	営業利益	173	+207 (—)	388	+194 (+100.0%)	561	+401 (+250.6%)

V-3. 地域別連結営業収益の推移

(百万円)

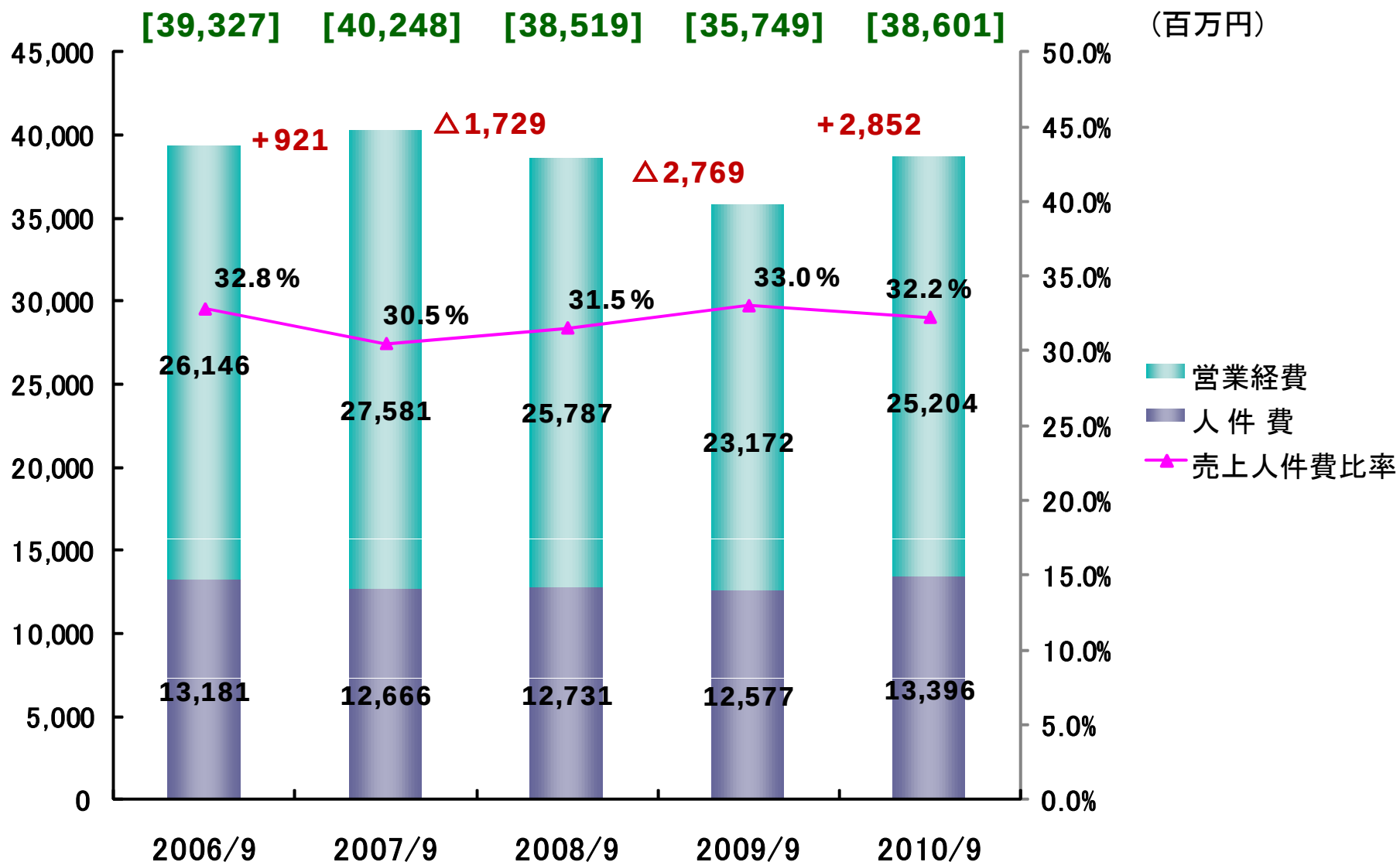
	2006/9	2007/9	2008/9	2009/9	2010/9	(構成比)
北海道	387	385	400	328	314	(0.8%)
東北	3,846	3,634	3,312	2,983	3,050	(7.3%)
関東	13,501	14,915	13,822	14,144	14,759	(35.5%)
信越	2,816	2,945	2,681	2,475	2,732	(6.6%)
北陸	—	—	—	—	—	(0.0%)
東海	10,738	10,738	11,691	9,361	11,806	(28.4%)
近畿	7,525	7,702	7,280	7,899	8,201	(19.7%)
中国	582	438	375	156	115	(0.3%)
四国	363	387	300	175	—	(0.0%)
九州	429	445	536	571	577	(1.4%)
沖縄	—	—	—	—	—	(0.0%)
計	40,192	41,594	40,400	38,096	41,558	(100.0%)



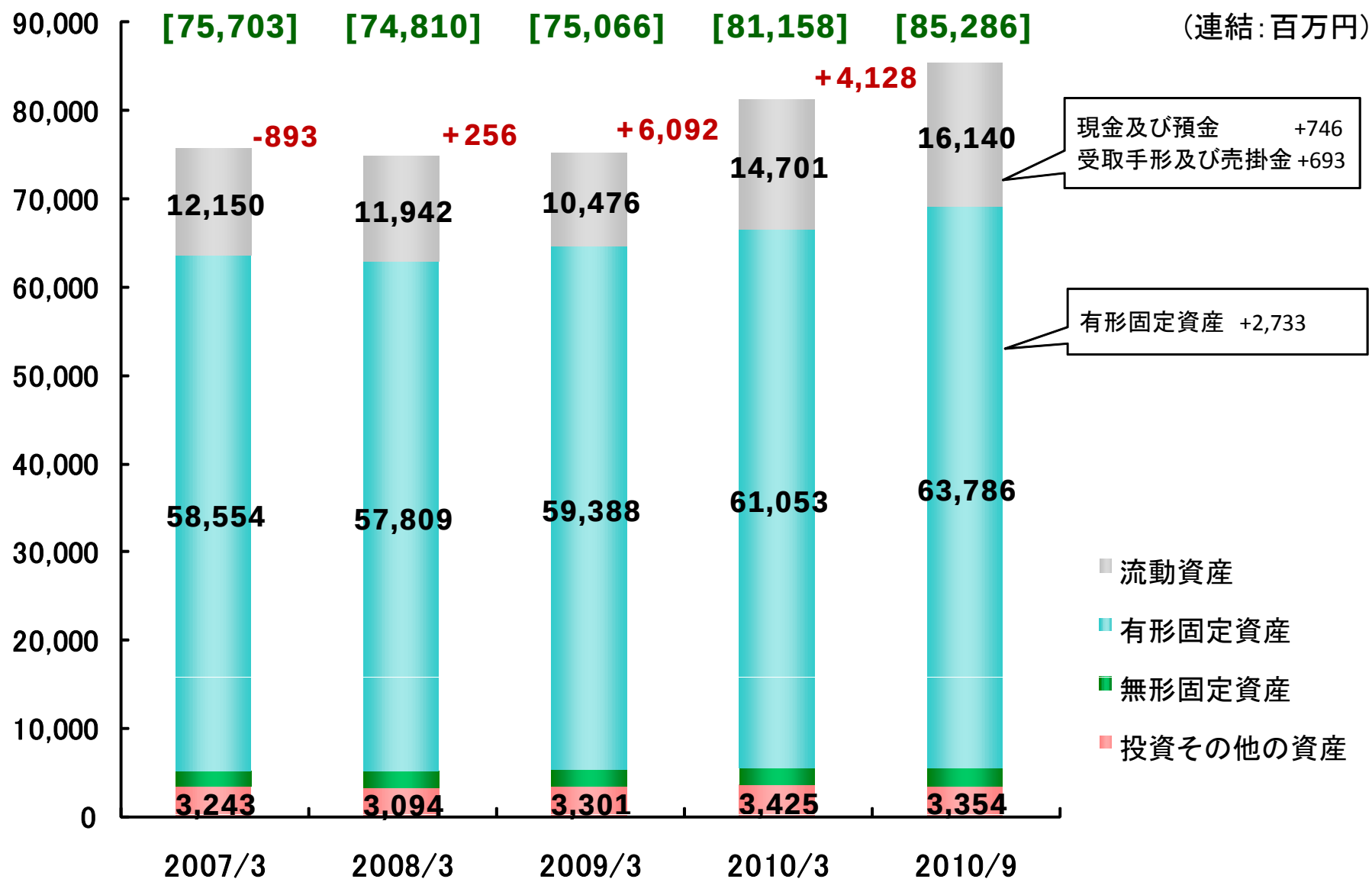
※グループ全体の営業収益

HAMAKYOREX

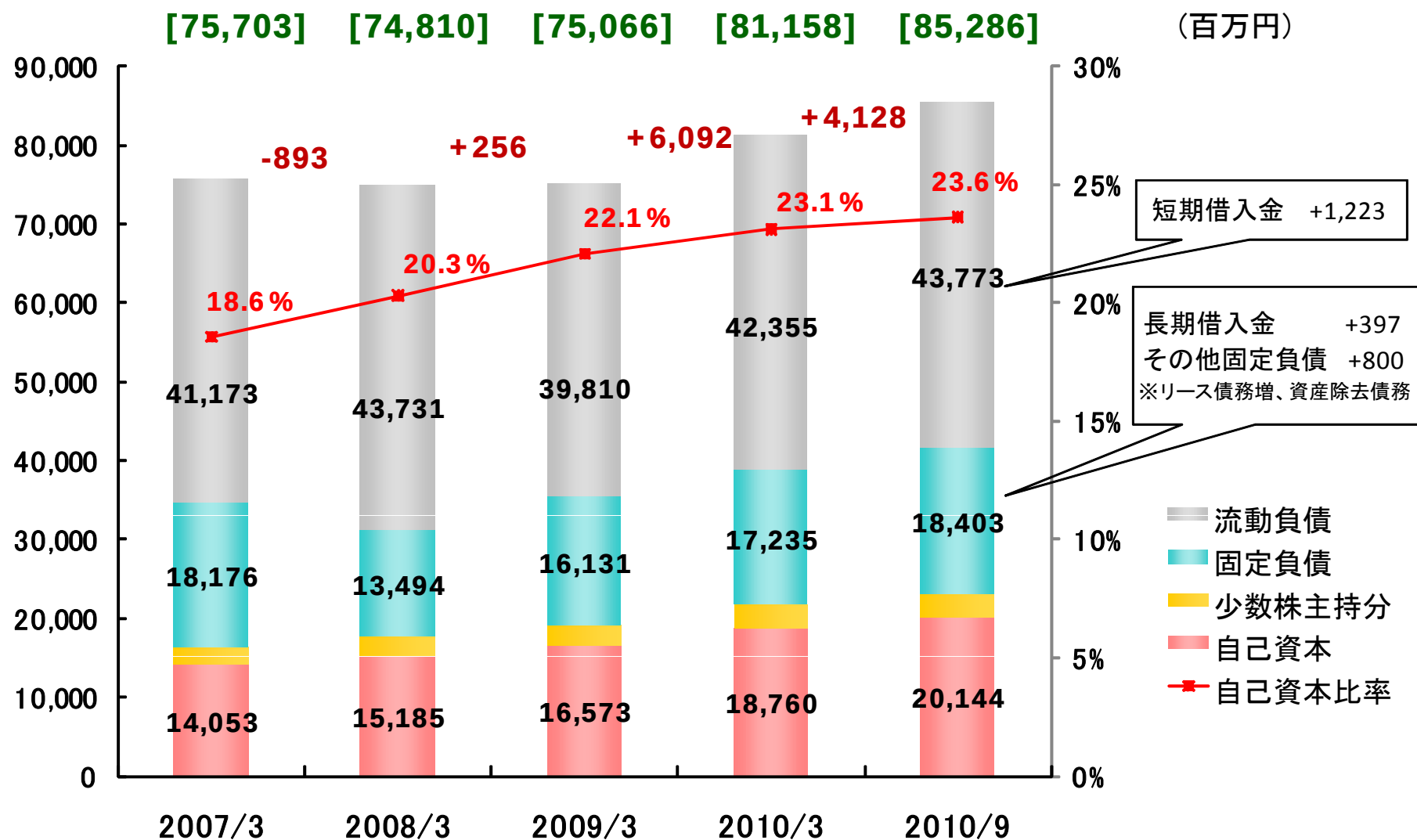
V-4. 経費・人件費



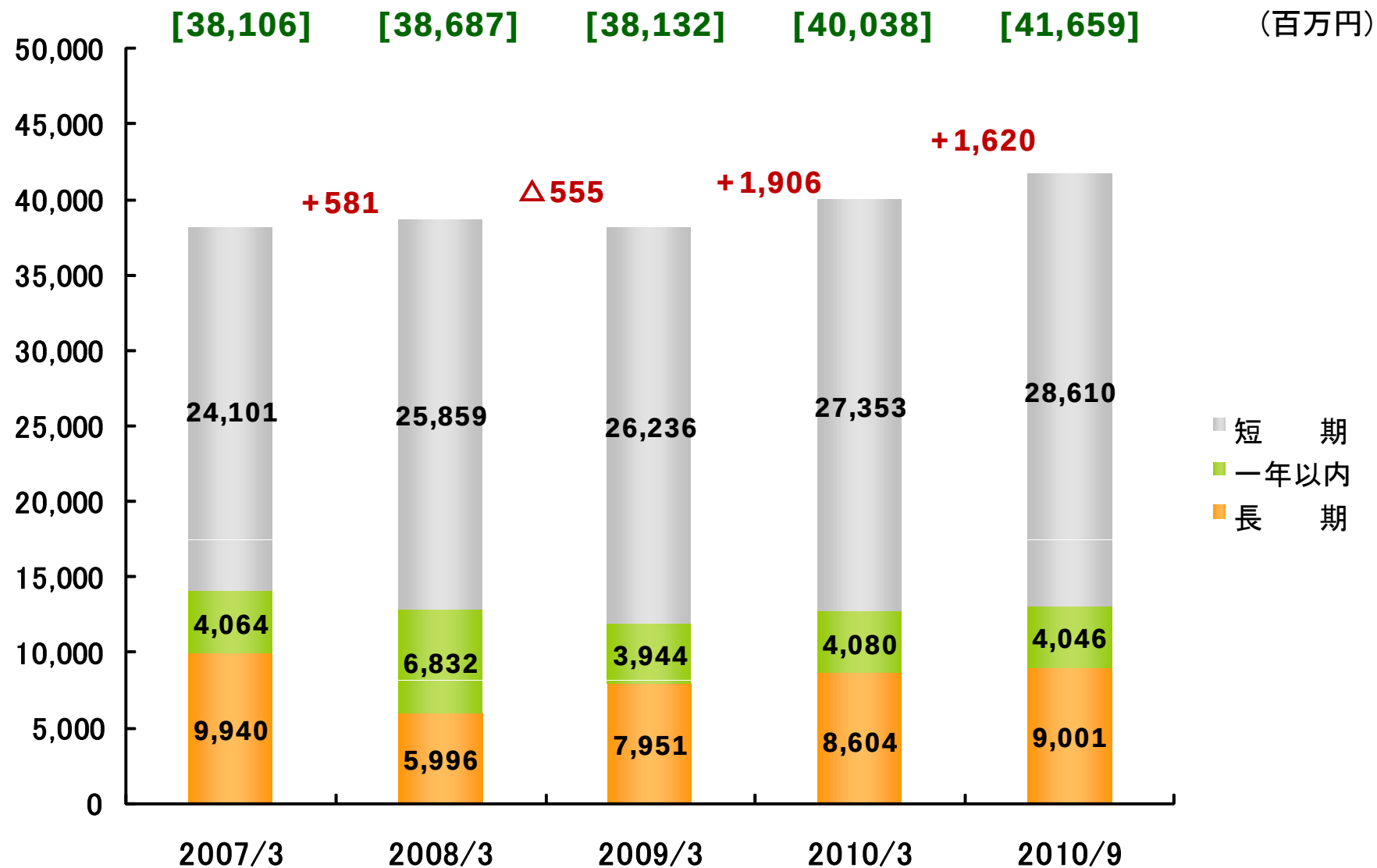
V-5. 貸借対照表<資産>



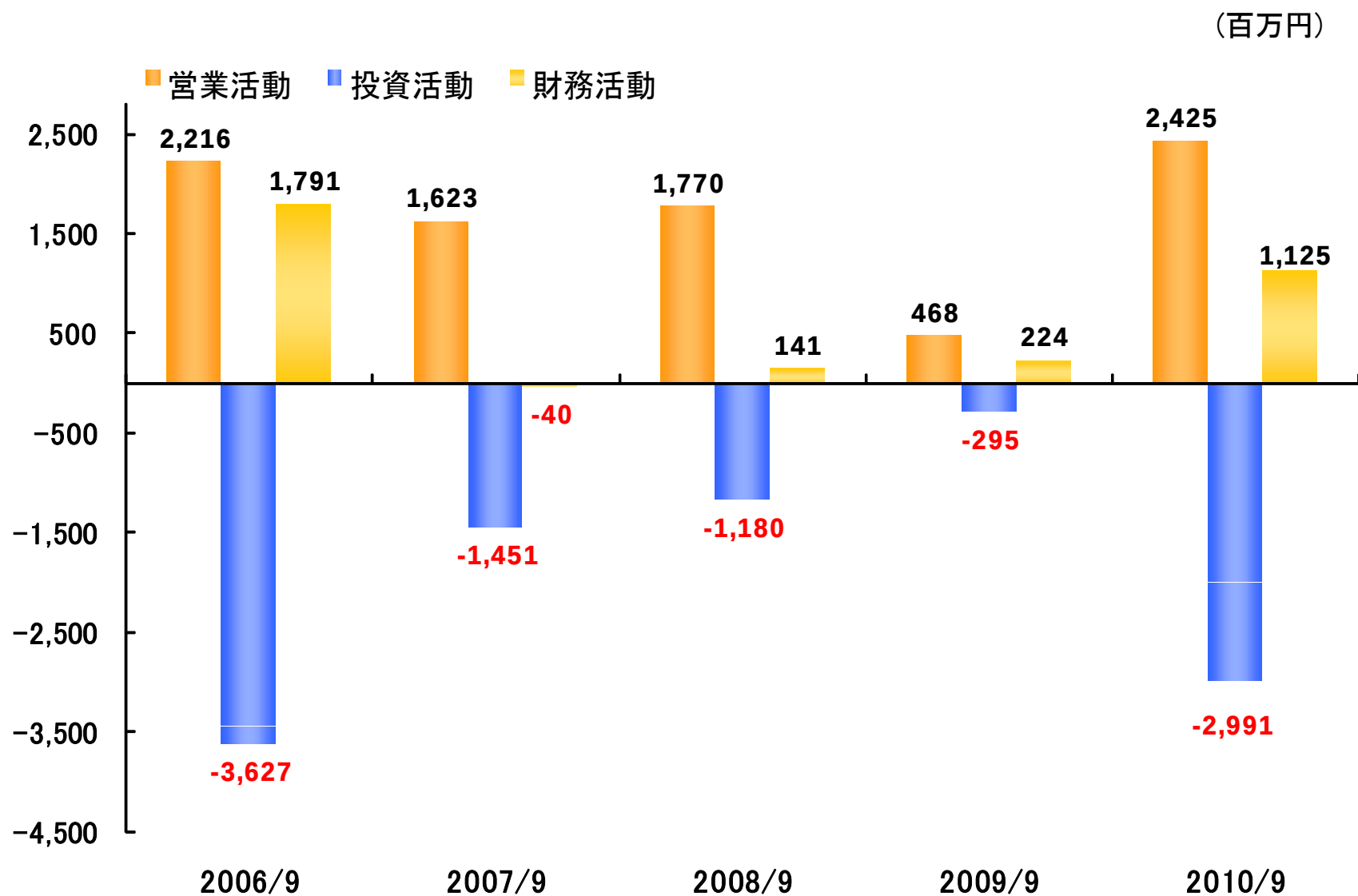
V-6. 貸借対照表<負債・純資産>



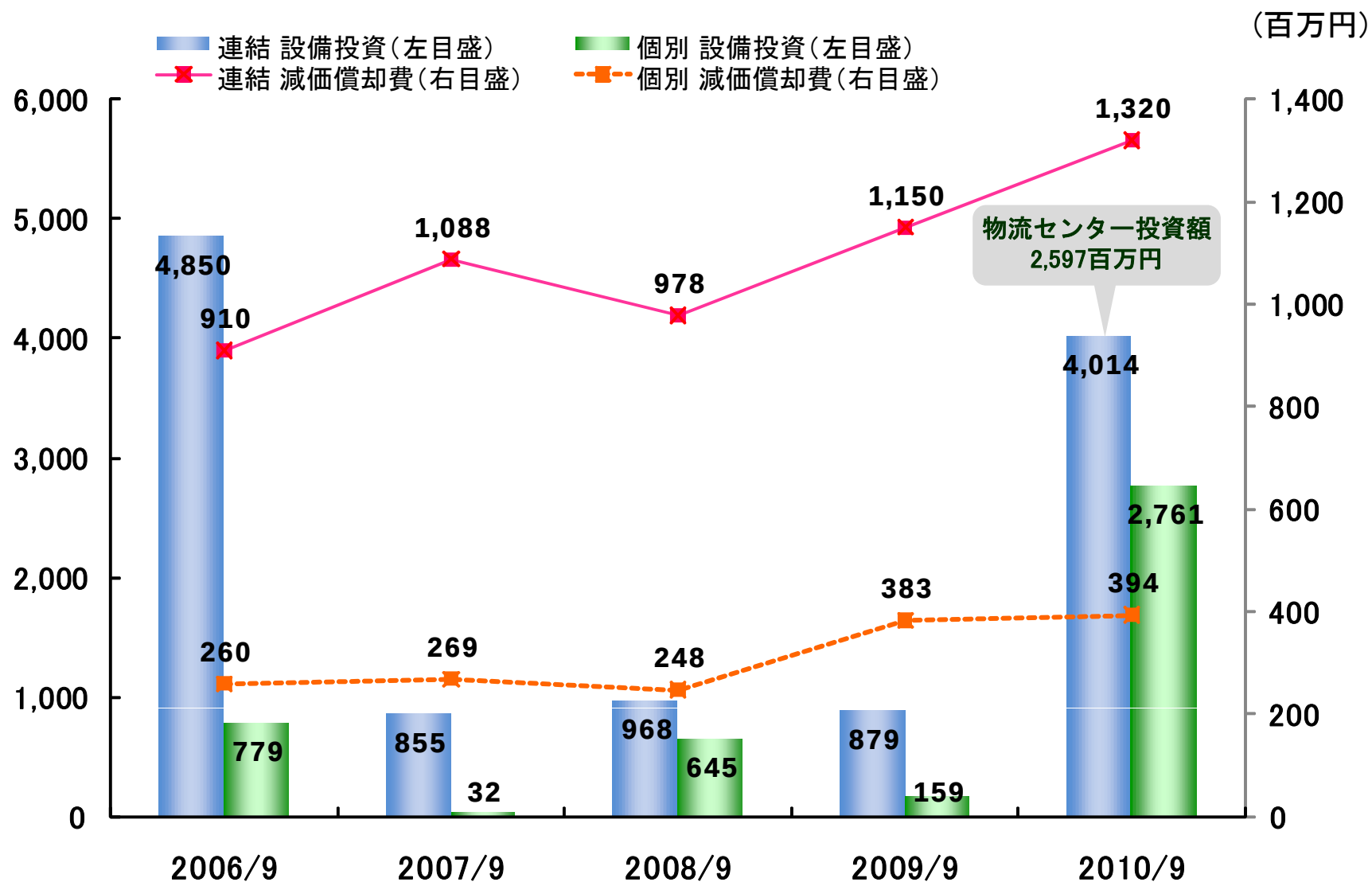
V-7 . 有利子負債（借入金）



V-8. キャッシュ・フロー



V-9. 設備投資・減価償却費



VI. 近物レックスの現況と 今後の戦略

VI-1. 近物レックス 第2四半期累計期間の業績

(百万円)

	実 績			計 画	
	2009/9	2010/9	前期比 (増減率)	2010/9	計画比 (増減率)
営業収益	17,166	17,476	+ 310 (+ 1.8%)	17,654	△ 177 (△ 1.0%)
営業利益	△42	75	+ 118 (—)	264	△ 189 (△ 71.5%)
経常利益	△195	175	+ 371 (—)	80	+ 94 (117.7%)

VI-2. 近物レックス 上期の状況・取組み

1. グループ間取引：関東・中部・関西で定例会議、共同渉外実施
新規取引・既存拡大。
2. 同業他社間取引：東北県下・三重県下の配送を新たに受注
3. インセンティブ：毎月の店所損益優良店所に対して報償金支給
(成績優良店所表彰)
4. 外注修繕費削減：自社整備工場の稼動効率化実施。前年同期比約20百
万円の外注費削減
5. 幹線輸送管理強化：24時間体制による管理。東京・名古屋の2拠点に配
車担当者が常駐。夜間管理体制の強化
6. 収支管理強化：毎日の人件費・残業・備車料を主眼に日計収支管理
に取組み日々損益の見える化構築
7. 組織変更：14地区部制から5支社22主管制への組織変更。本社
機能を支社に移管

VI-3. 近物レックス 下期以降の戦略

1. グループ：食品スーパーのセンター運営をハマキョウレックス（新規取引）と共同で9月より稼働
2. グループ：共同渉外を強化。定例会議にて進捗確認。（営業強化）月額1億円の取引を目指す
3. 営業強化：営業専任者・担当者の増員。特に既存顧客訪問強化と危機荷主管理
：商品異常時の早期連絡体制強化により、輸送品質を向上
4. インセンティブ：上期に導入。継続実施する事により社員のモチベーション向上を促す（成績優良店所表彰）
5. 幹線輸送便圧縮：9月27日付、中部管内一部店所において、圧縮を実施。幹線便が各店所から出車していたものを集約し、集荷したそれぞれの小型車両が集約店所へ持ち込み。積載効率を高めて設定する事により、10便削減。月間約8百万円のコスト圧縮
6. 一般職賃金改定：11月を目途に一般職全般を対象に実施。公平かつ平等でモチベーション向上が図れる賃金体系の構築

VI-4. 近物レックス 業績予想

(百万円)

	2010/3実績	2011/3見通	前期比 (増減率)	計画比 (増減率)
営業収益	34,675	35,404	+729 (+2.1%)	+142 (+0.4%)
営業利益	177	412	+234 (+131.9%)	△ 219 (△ 34.8%)
経常利益	31	329	+297 (+933.2%)	+70 (+27.2%)

IR関係問合せ先・担当者

- 常務取締役執行役員
管理本部長兼経営企画室長 日比野 稔
TEL 053-444-0054

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。